

2 伯耆地域の環壕（濠）集成－1－

はじめに

現在、妻木晩田遺跡洞ノ原地区西側丘陵において、環壕の調査を行っている。その調査の一環として、周辺地域の環壕（濠）を集成し、カード化していく作業を進めている。今後、順次、地域を広げ集成を行い、その成果は年報で紹介していく予定である。今回は、そのうち鳥取県内に所在する弥生時代前期～中期前葉（I・II期）の環壕を資料化したものである。

カードの記載について

環壕の情報を、1～6の項目に分け、整理を行った。

1 地理的環境

所在地：詳細がわかるものは小字まで記載。

時期：環壕の時間ではなく、遺跡の弥生時代における存続時期。

立地：遺跡の立地する地形。

比高差：水田面からの高さ、最高値/最低値を記す。

2 環壕の形態と規模

形態：環壕の平面形。

条数：1周しない濠なども1本に数える。

範囲：環壕の内側の直径（長軸×短軸）を記す。

規模：幅×深さ×最大高低差を記す。図Ⅲ-2-1参照。

断面形：V字形、U字形、台形、その他に分類。

時期：環壕の機能していた期間を記す。

出土遺物：主な出土品を記載。

複数条巡る環壕は、内側から第1・2・3環壕とする。

3 土塁・柵列

位置：環壕の内か外か記す。

確認根拠：現存していないものは、土塁を認めた根拠を記す。

4 環壕の内施設

環壕の内側に認められる環壕と同時期の遺構について記載。

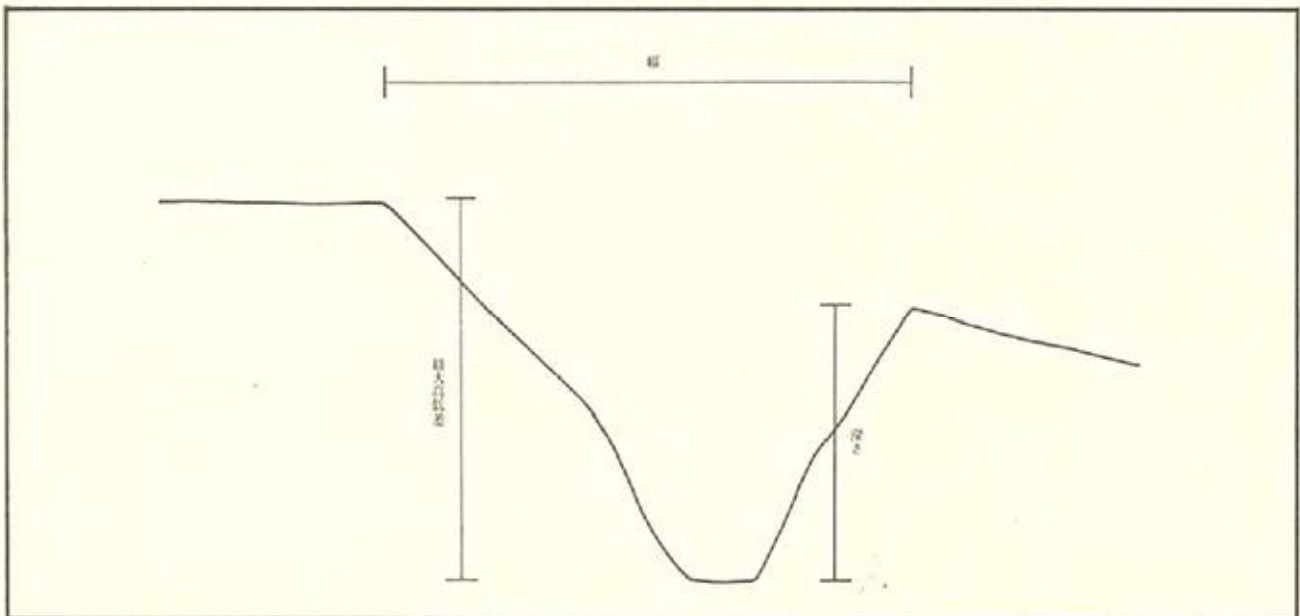
5 備考

隣接地または環壕の外部に、環壕と同時期の遺構や遺跡が認められる場合、その内容および特記事項を記載。

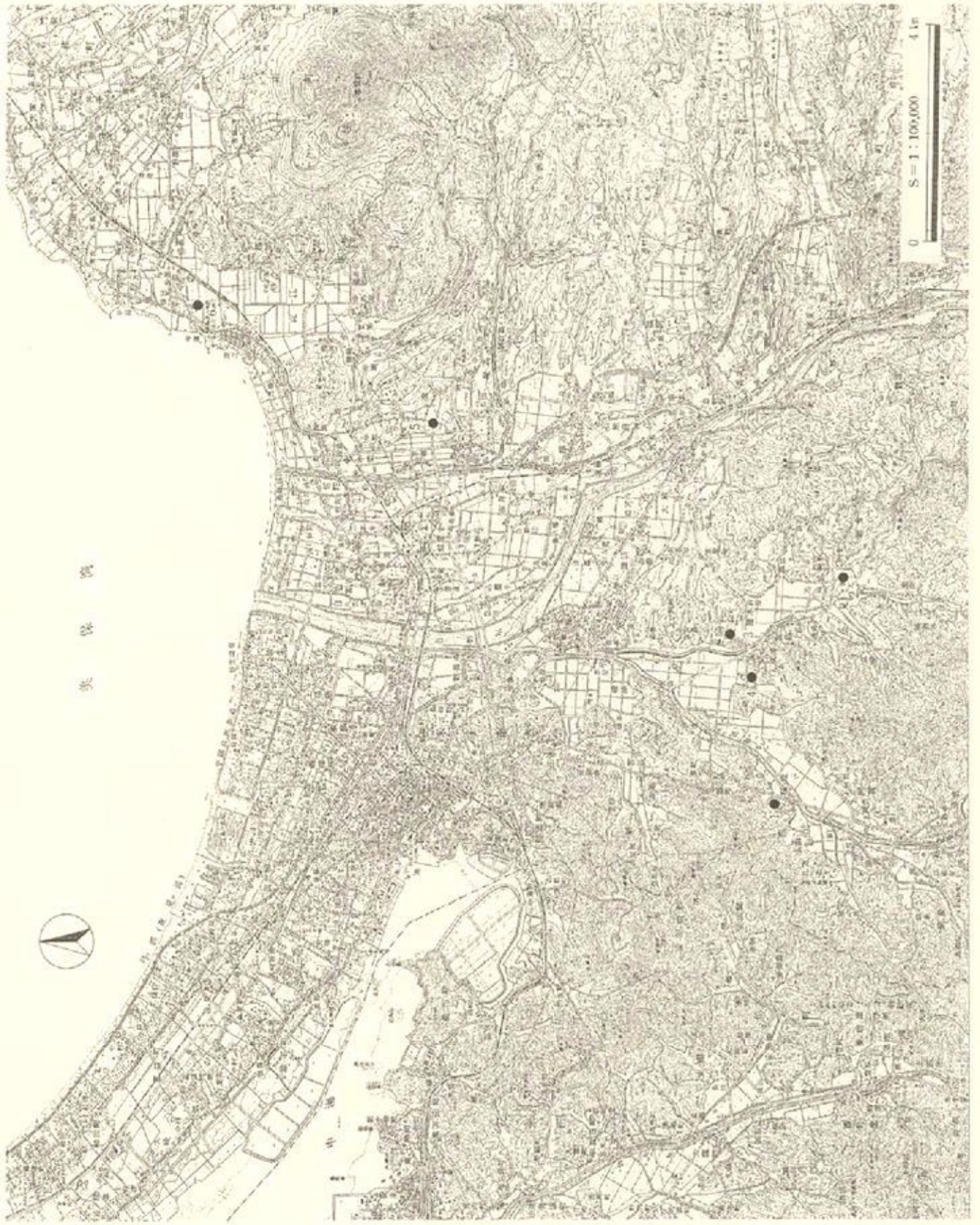
6 文献

代表的な文献を記載。

(濱田 竜彦)



図Ⅲ-2-1 環壕の規模

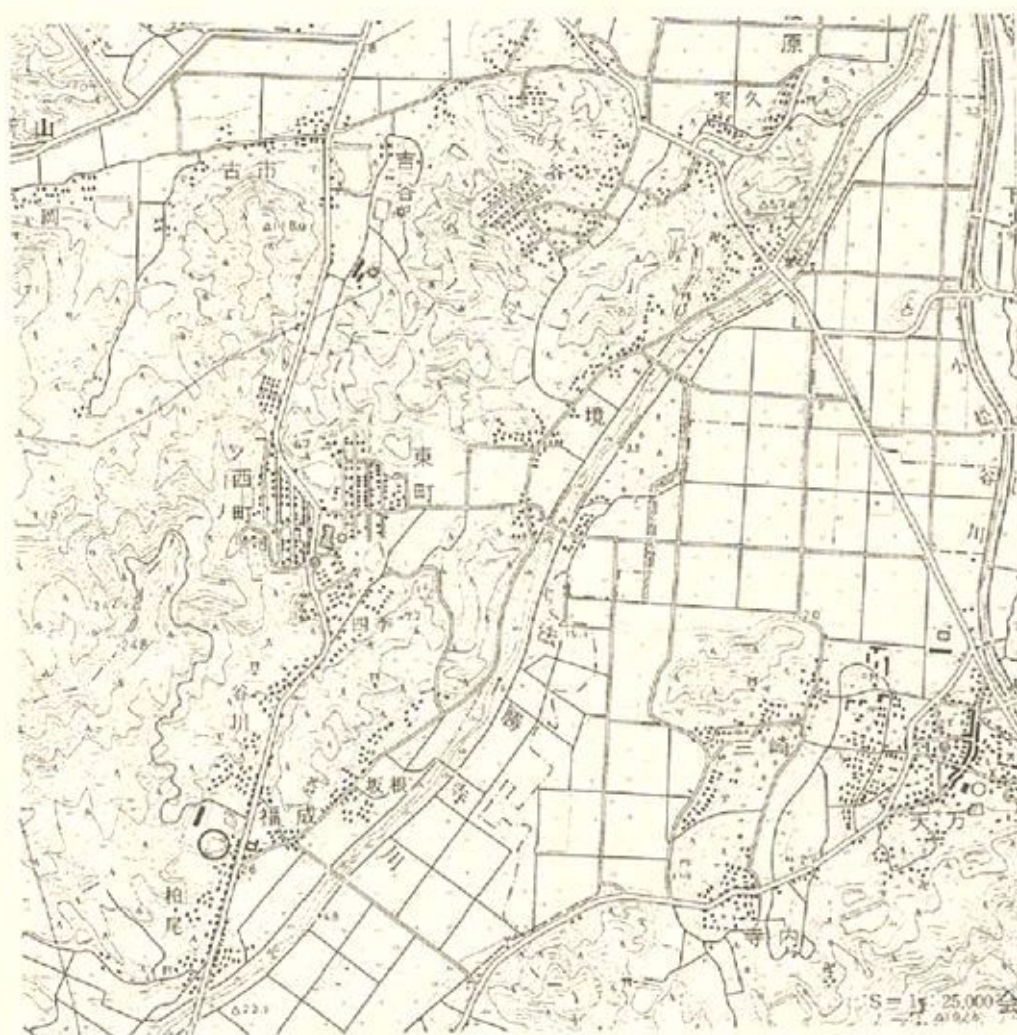


- 1 清水谷遺跡
- 2 天王原遺跡
- 3 請木遺跡
- 4 宮尾遺跡
- 5 尾高御建山遺跡
- 6 今津岸ノ上遺跡

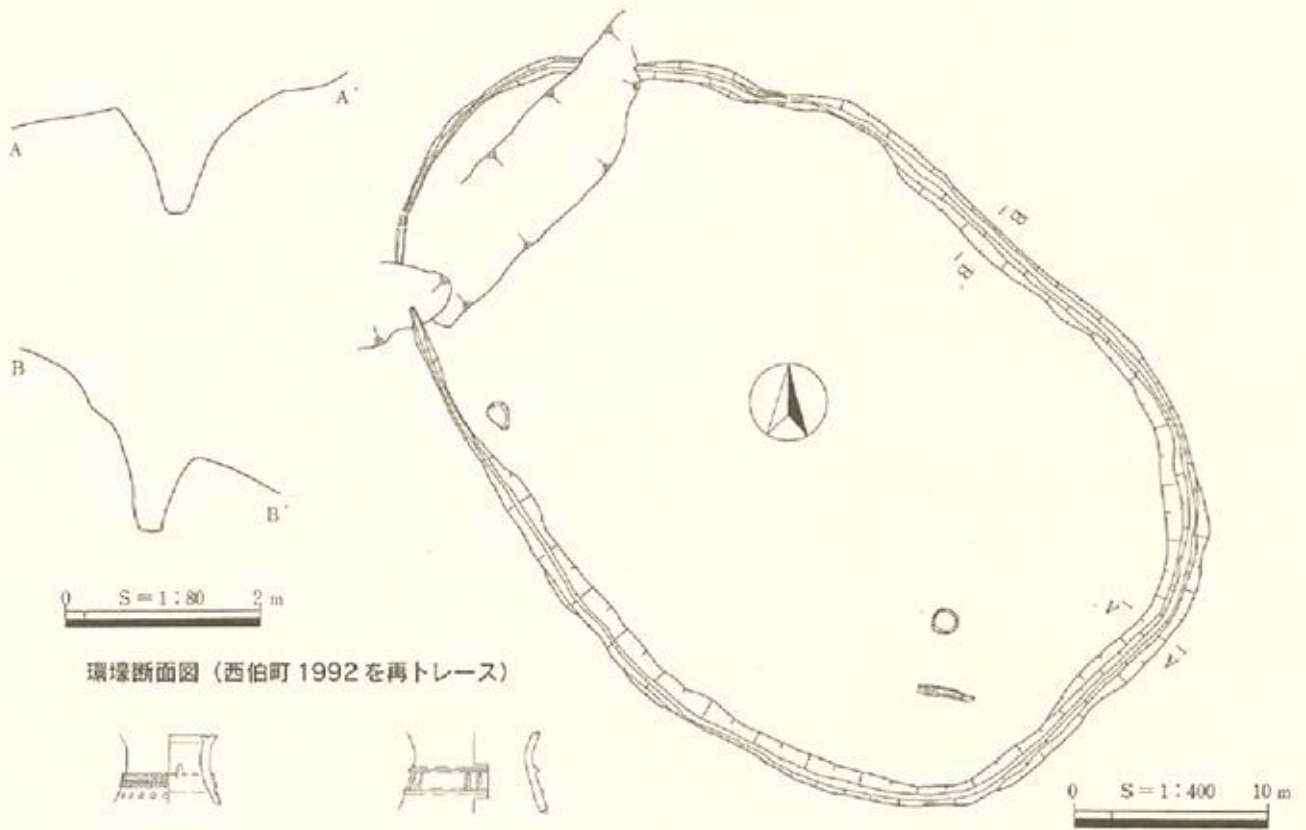
図III-2-2
分布圖

清水谷（しみずだに）遺跡

所在地	鳥取県西伯郡西伯町大字福成字清水谷字アナ				
時期	I~IV	立地	丘陵	標高/比高差	50m/30m
環壕（濠）の形態・規模					
形態	楕円形	条数	1	備考	—
	範囲	規模	断面形	時期	出土遺物
第1環壕	46.5m×31.2m	幅 1.8m~2.4m 深さ1.2m 最大高低差2m	V字形	I-4	土器
第2環壕	—	—	—	—	—
第3環壕	—	—	—	—	—
土塁の有無					
位置	未確認	確認根拠	—		
環壕内施設					
種類	数	時期	備考		
竪穴住居跡	0	—			
掘立柱建物跡	0	—			
土坑(貯蔵穴等)	2	I-4	時期不明を含めると最大5。環壕外に時期不明も含め最大2。		
溝状遺構	1	I-4			
墓塚	0	—			
備考					
文献					
西伯町教育委員会1992「清水谷遺跡」					

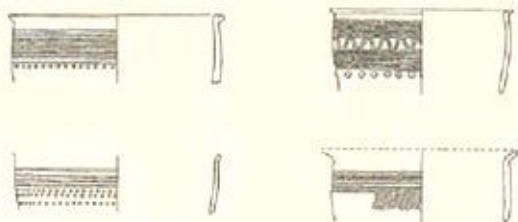


図III-2-3

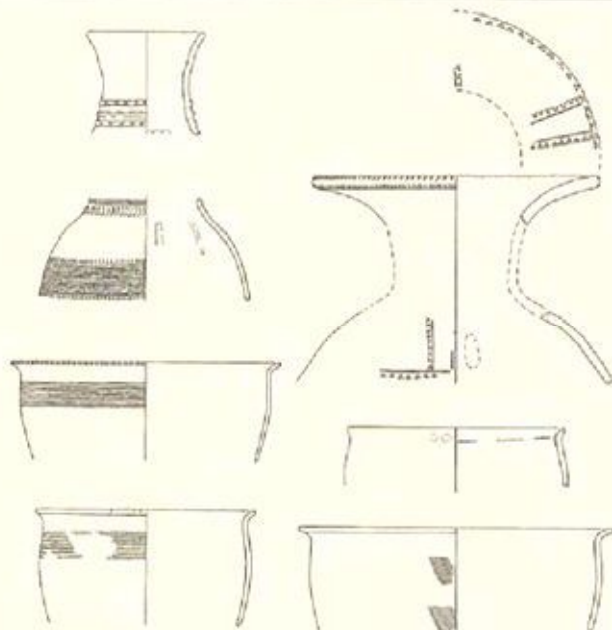


環壕断面図 (西伯町 1992 を再トレース)

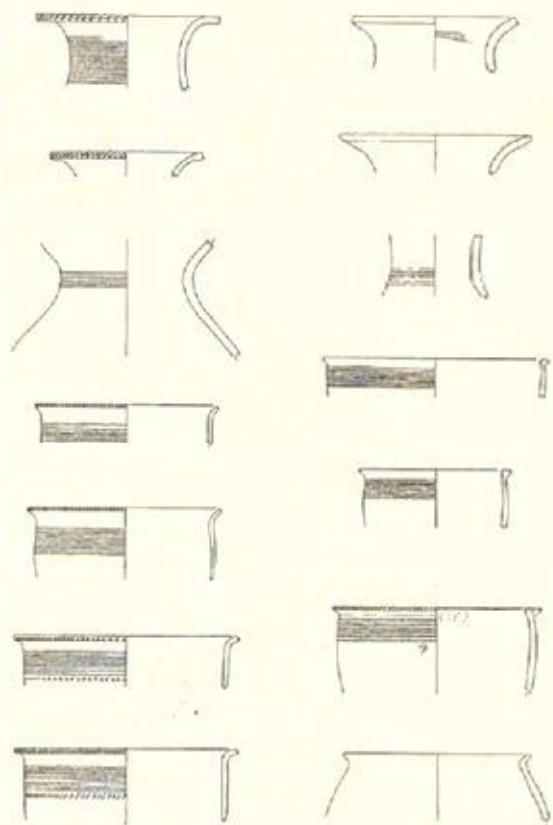
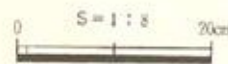
環壕平面図 (西伯町 1992 を再トレース・一部改変)



環壕下層出土



環壕上層出土

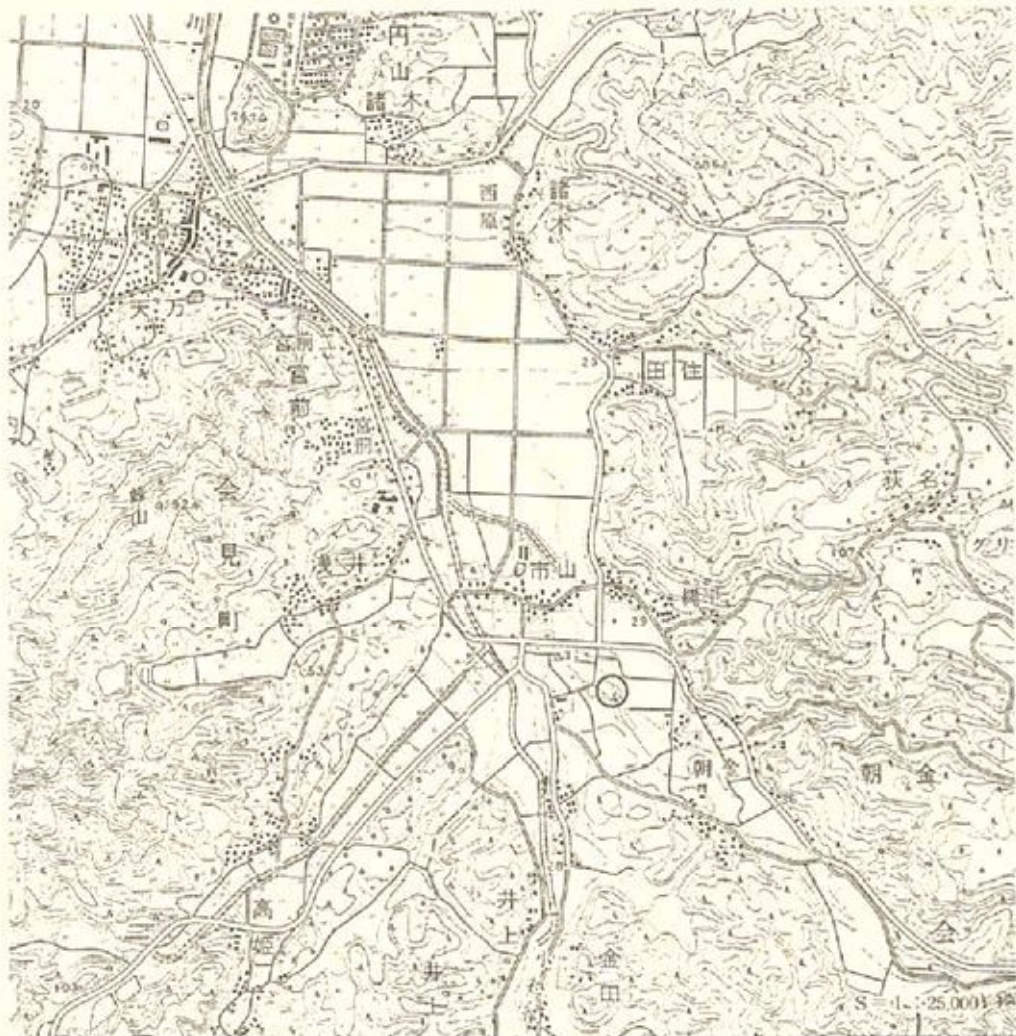


丘陵上出土

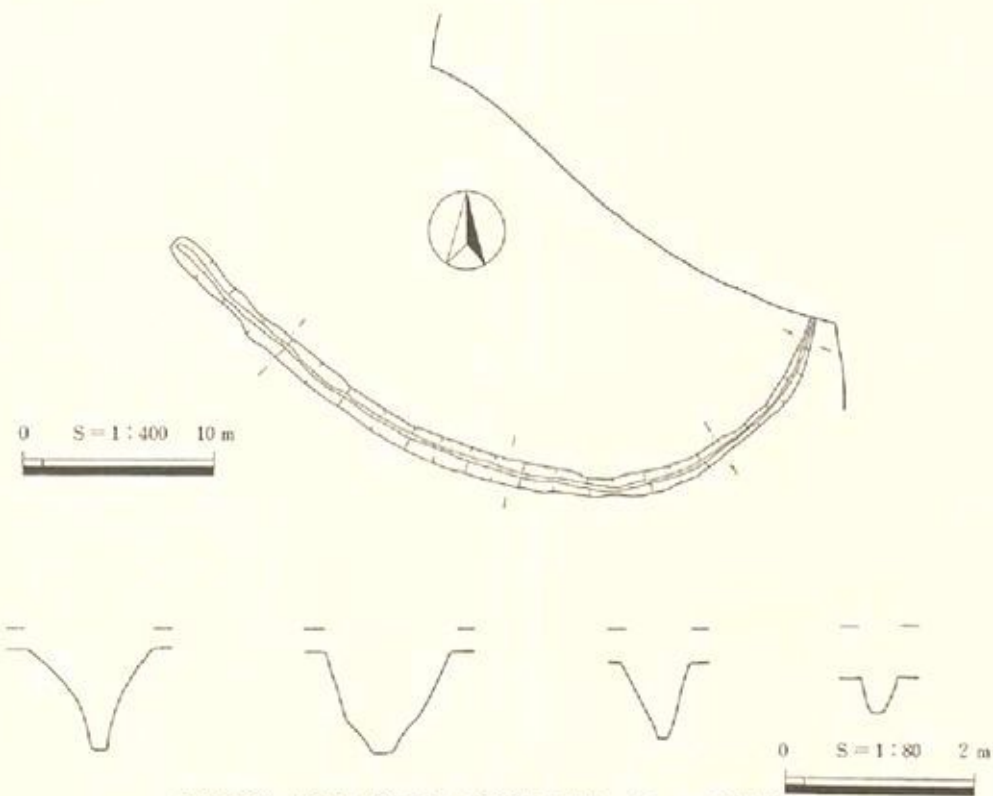
出土遺物 (西伯町 1992 から転載)

天王原（てんのうばら）遺跡

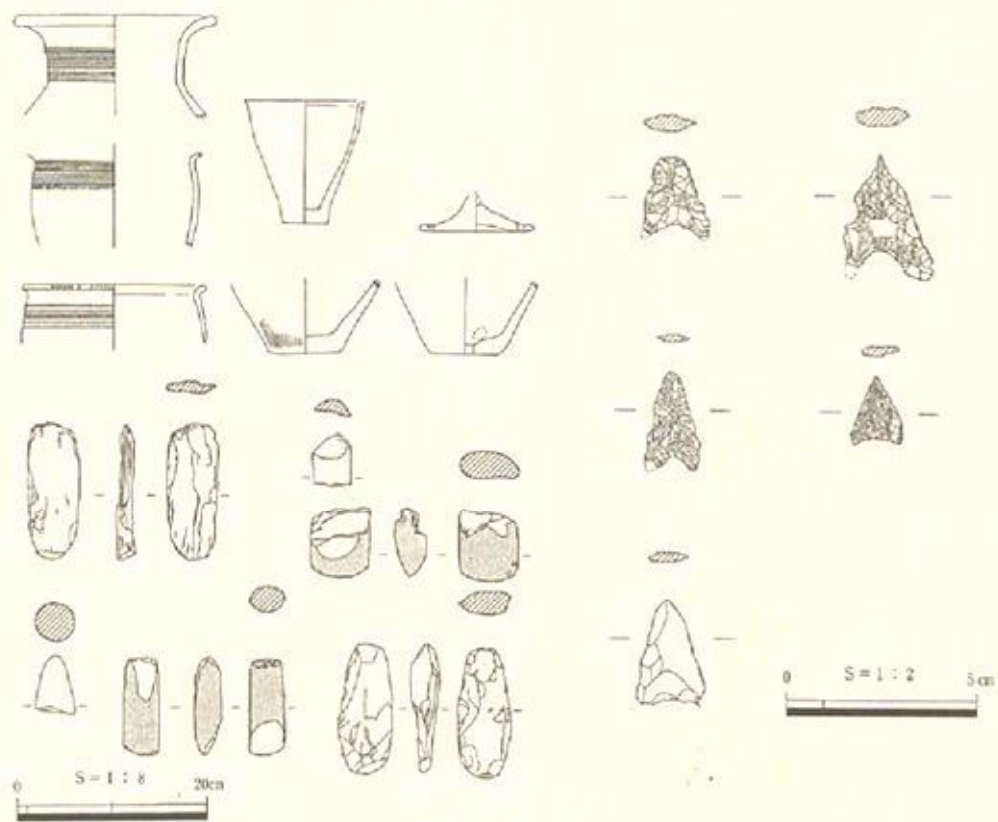
所在地	鳥取県西伯郡会見町市山・朝金・金田				
時期	I～IV	立地	段丘	標高/比高差	38m/8m
環壕（濠）の形態・規模					
形態	楕円形	条数	1	備考	—
	範囲	規模	断面形	時期	出土遺物
第1環壕	—	幅 1.4m 深さ 1.1m	V字形	I～4	土器、 石器（磨製石斧、打製石斧、石鏃）
第2環壕	—	—	—	—	—
第3環壕	—	—	—	—	—
土塁の有無					
位置	未確認	確認根拠	—		
環壕内施設					
種類	数	時期	備考		
竪穴住居跡	0	—	—		
掘立柱建物跡	0	—	—		
土坑（貯蔵穴等）	0	—	—		
溝状遺構	0	—	—		
墓 塚	0	—	—		
備考					
環壕外に貯蔵穴とみられる同時期の土坑あり。					
文献					
会見町教育委員会1993「天王原遺跡発掘調査報告書」					



図III-2-4



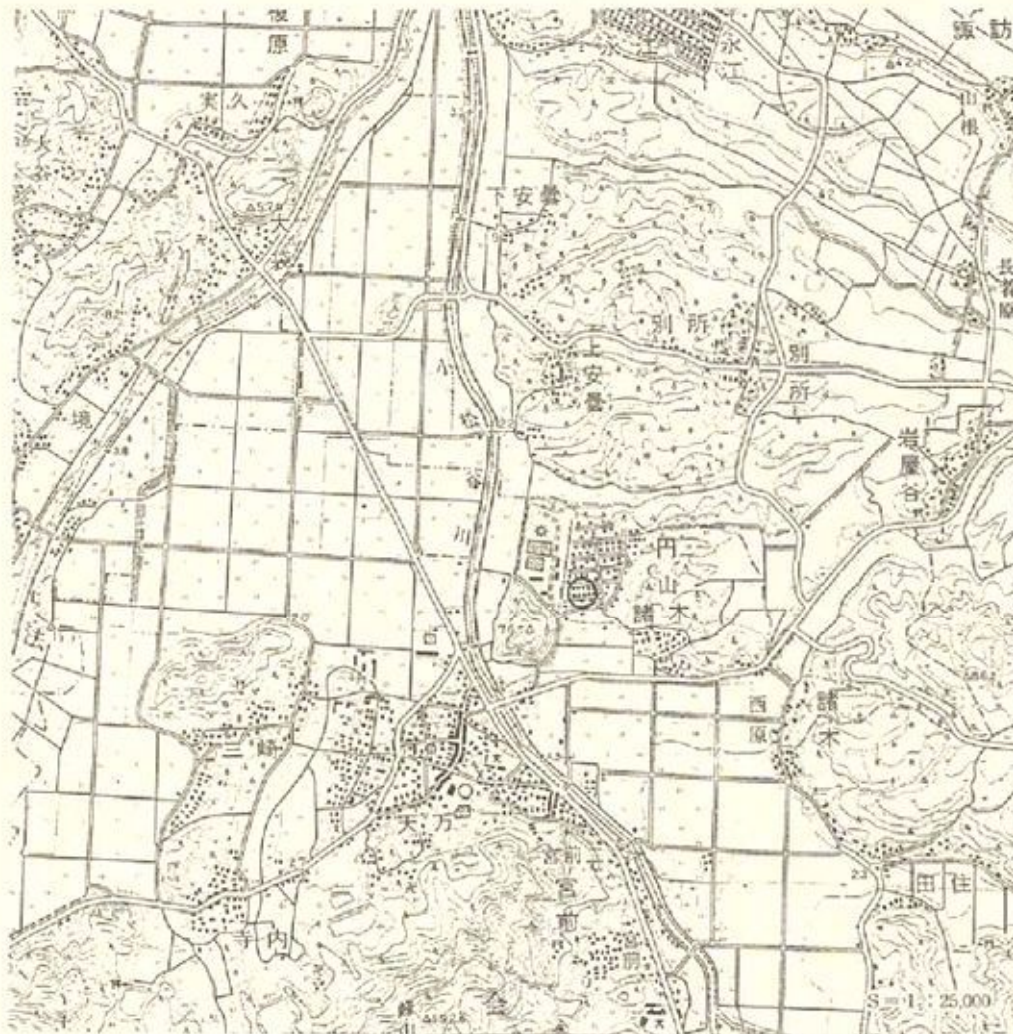
環壕平面・断面図（会見町 1993 を再トレース・一部改変）



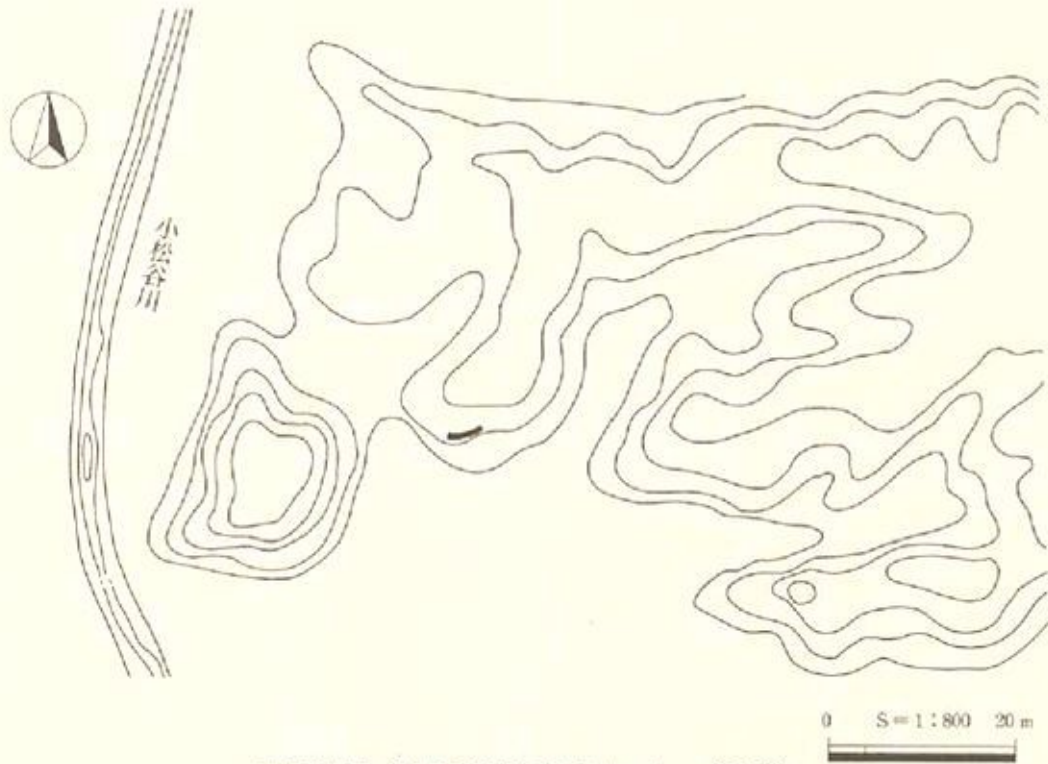
出土遺物（会見町 1993 から転載）

諸木（もろき）遺跡

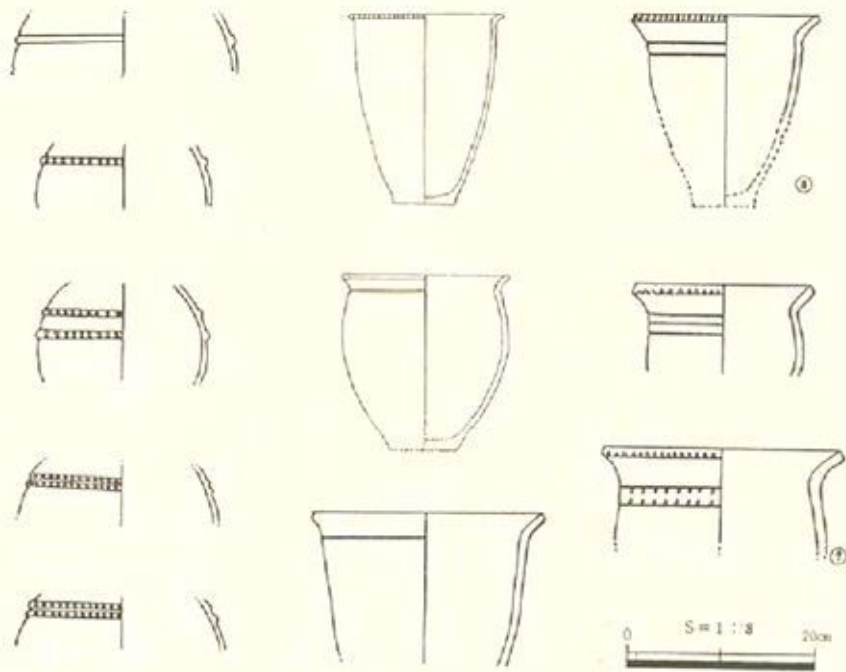
所在地	鳥取県西伯郡会見町大字諸木				
時期	1-(3)・4	立地	丘陵	標高/比高差	30m/10m
環壕（濠）の形態・規模					
形態	楕円形	条数	1	備考	—
	範囲	規模	断面形	時期	出土遺物
第1環壕	46.5m×31.2m	幅 1~2m 深さ 1~1.5m	V字形	1-(3)・4	土器
第2環壕	—	—	—	—	—
第3環壕	—	—	—	—	—
土塁の有無					
位置	未確認	確認根拠	—		
環壕内施設					
種類	数	時期	備考		
竪穴住居跡	0	—	—		
掘立柱建物跡	0	—	—		
土坑(貯蔵穴等)	0	—	—		
溝状遺構	0	—	—		
墓塚	0	—	—		
備考					
文献					
会見町教育委員会1975「諸木遺跡発掘調査報告書」					



図III-2-5



環塚位置図（会見町 1975 を再トレース・一部改変）



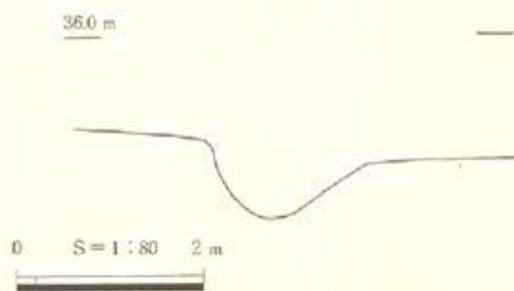
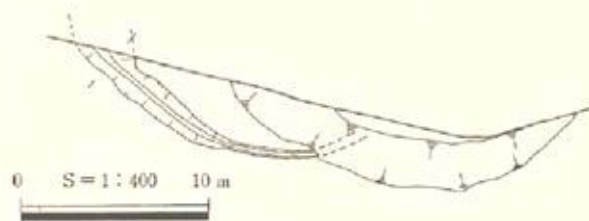
出土遺物（会見町 1975 から転載）

尾高御建山（おだかおたてやま）遺跡

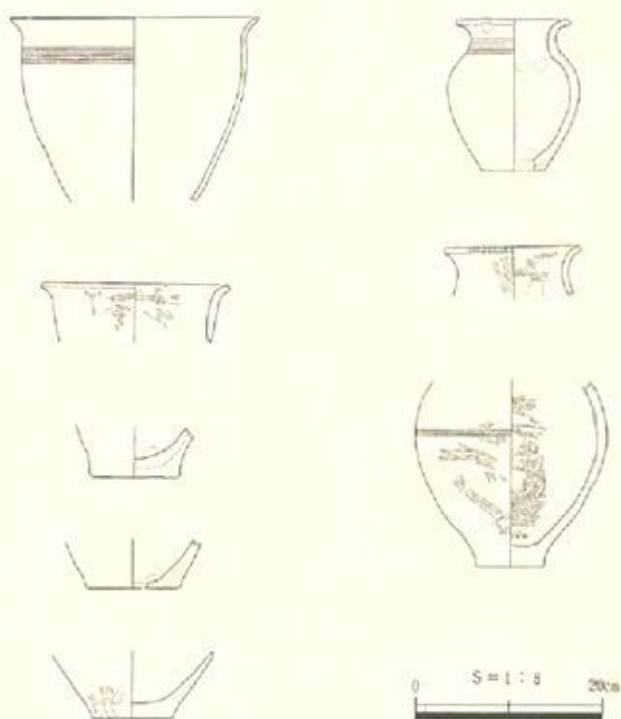
所在地	鳥取県米子市尾高				
時期	I-4	立地	丘陵	標高/比高差	34m/20m
環壕（濠）の形態・規模					
形態	楕円形	条数	1	備考	—
	範囲	規模	断面形	時期	出土遺物
第1環壕	—	幅 1.6m 深さ 0.52m	V字形	I-4	土器
第2環壕	—	—	—	—	—
第3環壕	—	—	—	—	—
土塁の有無					
位置	未確認	確認根拠	—		
環壕内施設					
種類	数	時期	備考		
竪穴住居跡	0	—	—		
掘立柱建物跡	0	—	—		
土坑(貯蔵穴等)	0	—	—		
溝状遺構	0	—	—		
墓 塚	0	—	—		
備考					
文 献					
鳥取県教育文化財団1995『尾高御建山遺跡Ⅱ 尾高古墳群Ⅱ 尾高1号横穴墓』					



図Ⅲ-2-7



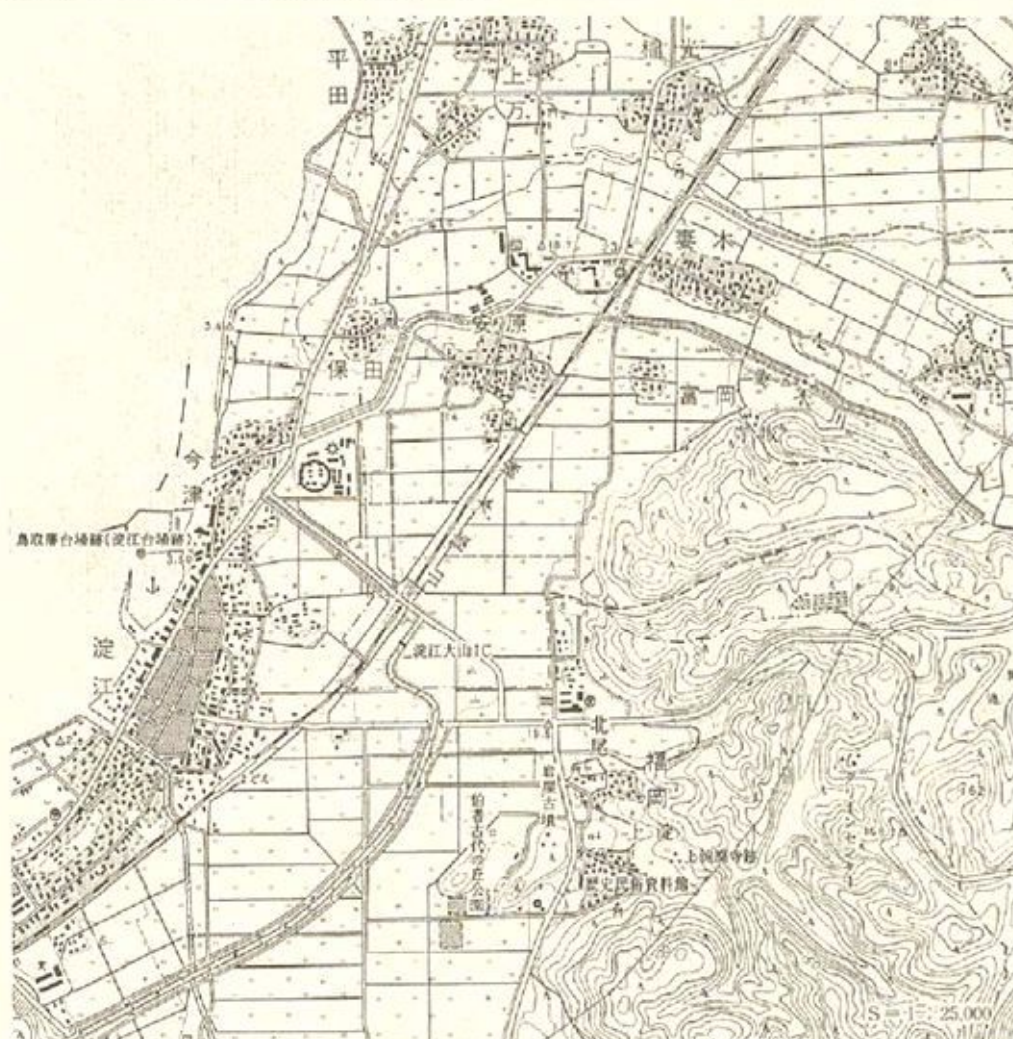
環壕平面・断面図（鳥取県 1995 を再トレース・一部改変）



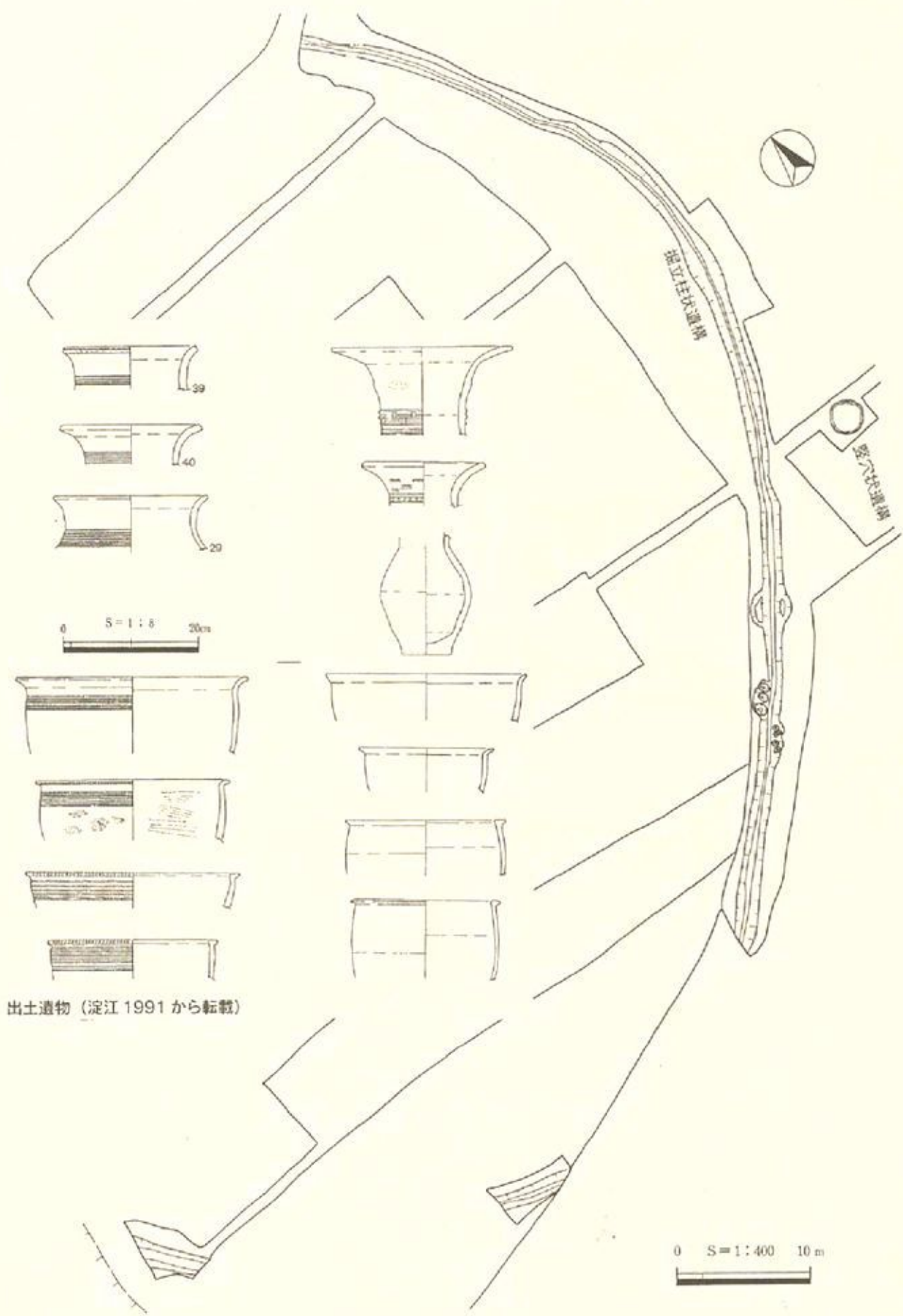
出土遺物（鳥取県 1995 から転載）

今津岸の上（いまづぎしのうえ）遺跡

所在地	鳥取県西伯郡淀江町今津岸の上				
時期	I-4	立地	段丘	標高/比高差	10m/-m
環壕（濠）の形態・規模					
形態	楕円形	条数	1	備考	-
	範囲	規模	断面形	時期	出土遺物
第1環壕	130m×80m	幅 1.0~1.8m 深さ0.3~0.7m	V字形	I-4	土器、石器（打製石斧）
第2環壕	-	-	-	-	-
第3環壕	-	-	-	-	-
土塁の有無					
位置	未確認	確認根拠	-		
環壕内施設					
種類	数	時期	備考		
竪穴住居跡	0	-			
掘立柱建物跡	0	-			
土坑（貯蔵穴等）	0	-			
溝状遺構	0	-			
墓 塚	0	-			
備考					
壕に伴う柵状遺構、掘立柱状遺構、環壕外に竪穴状遺構がある。					
文献					
淀江町教育委員会1991「今津岸の上遺跡発掘調査報告書」					



図III-2-8



出土遺物（淀江 1991 から転載）

環壕平面図（淀江 1991 から転載）